

地盤とセットで3Dモデル

応用地質、GSA

技術提携への発展は、国土交通省が取り組むCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデルリング）の試行業務で、3次元モデリングに協力したGSAと地盤構造を手がけた応用地質が互いの成果を合わせた融合モデルを、設計者に提供したことが

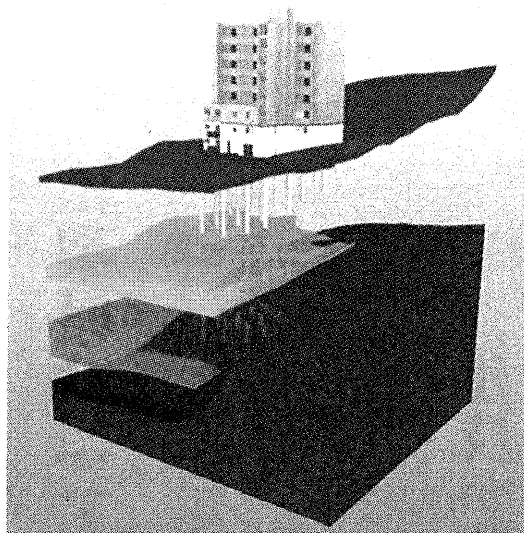
提携の効果を期待する。建築モデルと地盤モデルの融合は、見積もり段階で適正な建設コストを提供する手段にもなる。

BIM導入に積極的なゼネコンだが、地盤モデルのノウハウや実績が少ないだけに「融合モデルの利用価値は大きい」と、両社は口をそろえる。技術提携を結んだことで、業務を紹介し合うなど新たなビジネスチャンスを生むシナジー効果にも期待を寄せている。

BIM背景に提携

応用地質は豊富な3次元地盤モデル実績をもち、GSAは建築や土木の3次元モデリングに定評がある。設計から施工に至る本格的なBIMプロジェクトが増え、計画段階に建設コストを算出する切り口としても、建築と地盤の融合モデルは効果的だ。

一方のGSAは、BIMプロジェクトの高度化に伴い、設計者や施工者からより詳細な3次元シミュレーションが求められる中で「地盤情報との融合が大きな付加価値になる」（宮田信彦常務）と技術



建築と地盤の融合3次元モデル

応用地質とGSA（東京都新宿区）は、建築物と地盤情報を融合した3次元モデルデータの提供に乗り出す。BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）を導入した建築プロジェクトが拡大する中で、地盤も含めた3次元モデルの有効性が求められると判断し、技術提携を結んだ。互いのモデリング技術を合わせた融合モデルを武器に、計画段階からのプロジェクト参画を狙う。

きつかけとなった。

これまで応用地質は土木分野を中心に200件を超える3次元地盤解析を進めてきたが、提携を足がかりに建築分野への3次元地盤モデル提供をさらに拡大する。東日本大震災を契機として地盤に関連したリスク評価のニーズは高まっており、建築モデルと融合した地盤情報を提供できれば「建築主側に立って計画段階からプロジェクトにかかわることもできる」（嘉山稔朗 社会システム事業部副事業部長）との狙いもある。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| ⑬建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |